

4 研究構想図

学校教育目標

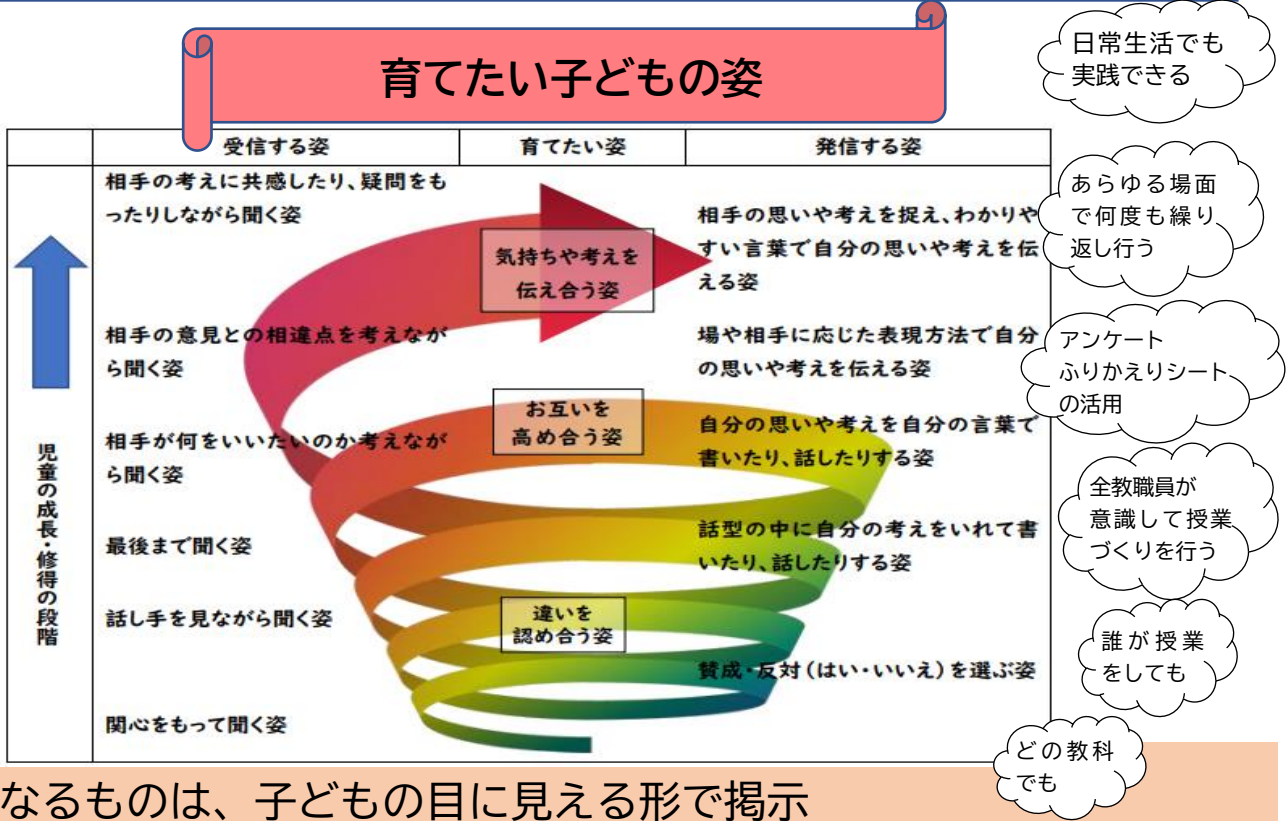
人間尊重・基本的人権の尊重を基盤として、地域社会の特性や実態を踏まえ、確かな力と広い心を持ち、たくましく生きる児童の育成に努める。

○（知）よく考える子〈かしこく〉

○（徳）思いやりのある子〈やさしく〉

○（体）たくましい子〈げんきよく〉

研究テーマ 「楽しく 安心して過ごせる 成瀬小学校」



土台となるものは、子どもの目に見える形で掲示



5 受信部

授業中の様子を見ていると、教師や他の児童が話している際によそ見をしたり、最後まで話を聞く前に自分の話を始めたりする児童が一定数いる。話し手がいかに魅力的な話をしていたとしても、聞き手が育っていなければ言いつぱなしになってしまい、コミュニケーションが成立しない。「人の話を聞くこと」は、コミュニケーションにおける第一歩と言える。「聞き方」を育てていくことが、「分かり合うためのコミュニケーション力」の育成につながっていくと考えた。そしてその力の育成こそが、安心して過ごせる学校につながっていくと考えた。

そこで本部会では、話し手が「自分の話を聞いてもらえている」と安心できるような聞き方や、相手の考えを聞き、自分の考えをアップグレードしていく手立てについて研究を続けてきた。

研究仮説

コミュニケーション力を高めていくために、受信する(聞く)ことと、発信する(話す)ことを磨いていく必要があると考える。そこで、受容的な聞き方をクラスに浸透させていくことで、話し手が安心して自分の考えを発信することができるのではないかと考えた。また人の話を確実に聞けるようになることで、自分の考えをよりよくしていけるのではないかと考えた。そうすれば「楽しく安心して過ごせる成瀬小学校」になるのではないかと考えた。以下の手立てに取り組む。

聞き方ピラミッド

すてきな聞き方を練習して、
自分のレベルを上げよう！



仮説に向かう手立て

基本となる聞き方あいうえお (1・2年生)

聞き方ピラミッド (3～6年生) を用いて全ての学級で指導していく。

手立て

- ①受容的に聞くことの意義の確認
- ②対話活動での意識付け
- ③振り返りの充実

場の設定

- ①隣の人の話を聞く。
- ②グループやクラスの皆の話を聞く。
- ③活動後、自分の考えを振り返る。

聞き方「あいうえお」

- あ いてを みて
- い い しせい
- う なずきながら
- え がおで
- お わりまで

具体的な活動

- ・ペアトーク、サイコロトーク等対話的な活動
- ・オープンクエスチョンの発問、話し合い活動
- ・ノート、「ふりかえりシート」での振り返り



成果と課題

受容的な聞き方がクラスに浸透し、誰かが立って発言するとその人の方に体を向けて話を聞く姿が多く見られるようになり、「なるほど！」「同じ！」といった、あたたかい反応が増えた。その結果、児童がいきいきとした様子で発言する姿が見られるようになった。また、ノートやワークシートの振り返りで、「最初は〇〇だと思ったけれど、□□さんの意見を聞いて考えが変わった。」「□□さんの意見を聞いて『なるほど！』と思ったけれど、〇〇だから考えは最初と変わらなかった。」といった記述が多く見られるようになった。友だちの意見を聞いて自分の考えが変化したり、多面的に考えて根拠をもてるようになったり、自分の考えをアップグレードしていく姿が見られた。

一方で、他者との交流をしたことで満足してしまい、自分の考えが深まっていけない児童も一定数いる。受容的な聞き方は、それ自体が「目的」ではなく、話し手を安心させたり自分の考えをより良くしたりしていくための「手段」であるということを、これからも児童に伝えていきたい。そして、今後も「教科指導の中で人権的な意識を育む」ということを念頭に、クラスの1年間の変容を見取って実態に合わせた活動を設定していきたい。

6 発信部

授業中質問すると教師に向かって話す児童や、何かあるとすぐに教師を見る児童が多い。児童同士で対話したり質問したり、交流したりしていくことが望ましいと考えたとき、どんな手立てが必要なのか。受信部と発信部が両輪となって考えていくべき内容として、発信部は何ができるかを検討してきた。

発信部のテーマは「思わず話したくなる」である。子ども達が話したくなる瞬間の表情、話したくなる時の姿勢、前のめりになり、聞いてほしい、見てほしい、といった態度、そんな瞬間は誰しものがそれぞれのクラスで経験してきたことと思う。この瞬間をもっと意図的に作れないかと考え、どんな内容やテーマにすると話したくなるのかや、どんな言葉の投げかけがきっかけで話し始めるのか、といったことを中心に考えてきた。

研究仮説

コミュニケーション力を高めていくために、受信する(聞く)ことと、発信する(話す)ことを磨いていく必要があると考える。そこで、思わず話したくなる、語りたくなるような場を意図的に設定することで授業だけでなく日常生活でも柔軟なコミュニケーションがお互いのでき、認め合い支え合う関係になれるのではないかと。そうすれば「楽しく安心して過ごせる成瀬小学校」になるのではないかとという考えのもと、以下の手立てに取り組む。



仮説に向かう手立て

基本となる話し方「あいいうえお」(1・2年生)

話し方ピラミッド(3～6年生)を用いて全ての学級で指導していく。

手立て

- ①話したくなる工夫が必要
- ②受信部の聞き方を大事にする
- ③話す経験を増やす

場の設定 小集団→全体といった段階を踏む

- ①個で考えをもつ。
- ②となりの人と話す。
- ③みんなで話す。

話し方「あいいうえお」

- あ いてをみて
- い そがず
- う まくつたわるように
- え がおで
- お わりまで

話したくなる工夫の具体

- ・席替えのタイミングでコミュニケーションを図るゲームを行う。
- ・答えがすぐに出ない話題での話し合いを取り入れる。
- ・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れる。



テーマを決めてペアトーク

成果と課題

受信部が大切にしている「話し手を見る」という行動が、発信側の「聞いてもらえる」という安心感につながったからか、自信をもって話す姿が見られるようになった。また、①個で考えをもつ。②となりの人と話す。③みんなで話す。といった段階を踏むことで発信力も高まっているように感じる。

しかし、発信することに力を入れて取り組んでいくと、課題も見えてきた。まず発言する児童が固定化されてしまっていることである。よく発言する児童が固定化されてしまうことで、発言しなくても済むと思ってしまうこともあるのかもしれない。また、発言はするのだが、発言することそのものに満足してしまい、他者の意見と自分の意見の違いを考えたり、高め合ったりするような深まりが見られないこともあった。

発信部としては今後も、まずは発信する姿を大事にしていくが、更にその先の質の高まりや深まりを意識して取り組んでいけるよう研究を進めていきたい。